

# G3 のツイッター その 45

## 烈剛河内 竹井 保満

お正月が余り目出度くなくなった老害のわたくしです。

「門松や冥土の旅の一里塚、目出度くもあり、目出度くもなし」

一休さんが謳いながら、骸骨をつけた竹の杖を突きながら家々を回った話は有名です。

佐藤愛子さんの 90 歳になって、何がめでたいの本が年寄りに良く売られています。

暖かい部屋でお節を頂いてお酒を飲んで、平和で新しい年が迎えられて、先ずは、目出度しめでしたし。

仕事が始まれば、一月と二月は寒波の来襲です。古い中国の暦には、冬將軍のことを冬帝とか玄武と言ったそうです。気象予報士さんは、シベリアからくる寒気団の事を冬將軍といいますが、ナポレオンが寒さに負けたほど凄い寒さを表しているらしいですが、そうでも無いようです。

私が以前に読んだ本で人間の太古からの友達の蚤と虱の本を紐解きました。やはりナポレオンがやられたのは、虱による発疹チフスと飢えでした。ナポレオンは 1812 年 6 月に 69 万の軍隊を率いてモスクワを目指して進撃します。迎え撃つロシア軍は 25 万でしたが、戦闘はほとんど行われること無く、食料と民家を焼き払いながら敗走しました。ナポレオンは、9 月には、焼け野が原のモスクワに入城しました。その数 11 万人。食料も無く、体も洗わず服も着替えず、虱が大発生し、発疹チフスで 22 万人が亡くなりました。モスクワに入った兵士も夏服だけで、焼け野が原からは何も調達できず、餓えとチフスに耐え切れずもモスクワを捨てて逃げ帰りました。

最後までたどり着いたのは 5 千人、モスクワの 9 月の気温はマイナス 5 度にもなりません。本年度の 9 月と 10 月もマイナス 5 度までも下がりませんでした。ナポレオンの敗因は寒さではなく餓えとチフス説をとります。

なぜこんな馬鹿な戦争をしたのかネットで調べました。

ナポレオンは西欧では負けでは知らずの戦いでしたが、イギリスだけが征服できません。そこで、イギリスを兵糧攻めにしようと、小麦を輸出しているロシアに対してイギリスに小麦を送らないよう契約をします。ロシアは、イギリスの工業製品がほしいので輸出を止めません。それで、戦争になったと言うことでした。

話に落ちがあります。ロシアが勝ったので、どんどんイギリスに安い小麦を大量に輸出しました。イギリスの農民は安い輸入小麦で困窮したと言うことです。人間のすることはバカな面白いことばかりの連続です。こんなバカなことに関わって殺されてはたまりません。

私は昨年 9 月半ば、練習も行わず競技に出て、肩を壊し左手が動かず半身不随になった様なつらい日が続きましたが、リハビリで良くなって来ています。自炊ですので、体に悪い物を排除しトレーニングで強靱な体を作る直す年にしたいと思っています。